

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 海外との芸術文化交流事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

県民文化局 文化伝承課 教育文化係 電話番号：058-272-1111(内3142)

E-mail：c11148@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 19,927 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	19,927	7,721	0	0	0	0	0	0	12,206
決定額	19,356	7,493	0	0	0	0	0	0	11,863

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・現代陶芸美術館は、活動理念として「国際的な情報を提供して、陶磁器産業の発展に寄与する」を掲げている。この方針のもと、これまで海外の陶磁器文化を紹介する展覧会の開催や海外の陶磁器専門館との文化交流を行ってきたところであり、令和5年度においても、ブダペスト国立工芸美術館と相互交流事業として、4月22日から7月2日にかけて「ハンガリー現代陶芸展」を開催した。
- ・令和5年度夏の知事の欧州訪問の際、ハンガリー現代陶芸展に出品、来岐し、文化交流を行ったハンガリーの陶芸家ネーマ・ユリア氏の個展及び県内陶芸作家2名の展示を視察し交流を行った。
- ・継続的な海外との文化交流として「清流の国ぎふ」文化祭2024において、ネーマ氏と県内陶芸作家2名の共同作品展を開催する。
- ・作品展の開催を通じ、岐阜・ハンガリーの陶磁器文化の相互交流が進み、岐阜県の陶磁器文化の活性化及び世界への発信・知名度の向上が期待できる。

(2) 事業内容

展覧会「Ways of Earth(仮称)」の開催

会 期：令和6年10月18日～11月17日

会 場：岐阜県現代陶芸美術館 プロジェクトルーム

東京巡回：リスト・ハンガリー文化センター東京(予定)※作品一部を展示

企画趣旨：ハンガリーを拠点に活動する陶芸家ネーマ・ユリア氏と岐阜県を拠点に活動する陶芸家日置哲也氏と阿曾藍人氏のハンガリー現代陶芸展等を機に深まった国際交流の成果を展示する。

関連事業：出品作家によるアーティスト・トーク、ワークショップ

(3) 県負担・補助率の考え方

- 「アジア陶磁デルタプロジェクト じゃんけんぽんの考えかた 一勝ち負けのない共存展」(現代陶芸美術館事業)
平成19年度に多治見(岐阜県)、利川(韓国)、鶯歌(台湾)の東アジア3地域(陶磁器産地)による国際相互交流展(巡回展 韓国→台湾→当館)を開催。
予算:22,995千円、入館者数:2,707人、日数:62日、作品数:150点
- 「台湾現代陶芸の力 台湾・新北市鶯歌陶磁博物館所蔵作品による」展(現代陶芸美術館事業)
本館と新北市立鶯歌陶磁博物館(台湾)は、平成17年に「文化交流に関する覚書」を締結。締結後、予算の都合により当館として連携事業の計画が困難であったが、平成31年度に人的交流を再開したのを機会とし、両館の連携を深め、相互交流の交換展開催事業を計画する。令和元年度11月には新北市鶯歌陶磁博物館からの招聘により当館学芸員が渡航し、現地調査研究を行った。その成果を反映し、令和3年度に当館で同館コレクション展を開催。
予算:22,800千円 入館者数:6,776人、日数:54日、作品数:90点
- 「やきものうたう:ハンガリー現代陶芸展」(現代陶芸美術館事業)
本館とブタペスト国立工芸美術館は、令和5年1月に「陶芸文化交流に関する覚書」を締結。令和5年4月、相互交流の初めの事業として本館にて展覧会を開催。
予算:45,454千円 入館者数:4,058人、日数:62日、作品数:112点

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	150	関連事業謝金
旅費	623	関連事業費用弁償、作品集荷確認
消耗品費	30	事務消耗品
会議費	4	関連事業昼食代
役務費	554	通信運搬費、翻訳、通訳
委託料	18,541	作品集荷委託、造作物製作委託、関連事業委託等
使用料	25	関連事業会場借り上げ
合計	19,927	

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

R5年度のハンガリー現代陶芸展の開催を通じ、岐阜・ハンガリー間の陶芸文化交流を行った。他国文化の紹介によって県民や陶磁器関係者の知的好奇心に応え、長期的な視点でさらなる陶磁器文化の発展に資する。また、相互交流を通じて岐阜県の陶磁器文化を世界的に発信することで、当地域の陶磁器文化の知名度の向上や、波及効果としての地域振興・観光振興に寄与する。

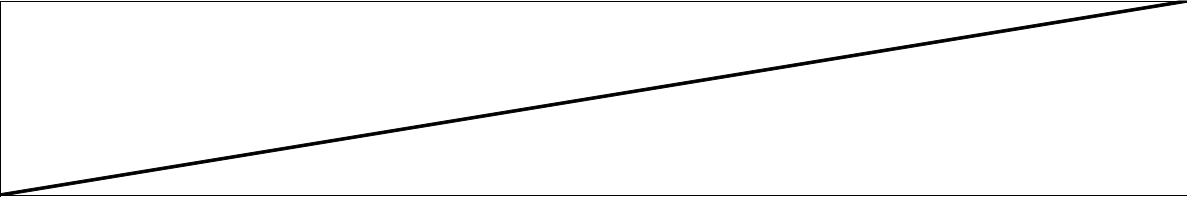
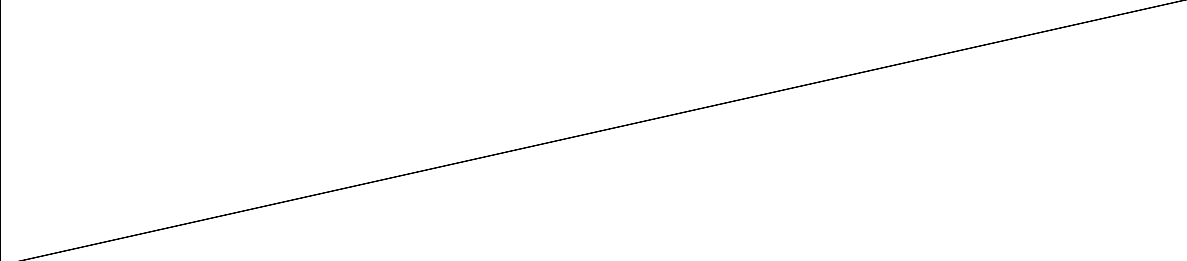
（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

作品展は内容や開催規模、時期によって動員数に大きな差があり、年度ごとに開催本数や期間も異なるため、達成度を図るような基準数値は存在しない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	 <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和3年度	 <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>○取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンガリー現地での作品調査と相互交流に関する協議を行い、「陶芸文化交流に関する覚書」締結に向け、調整を行った。 <p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県現代陶芸美術館とブタペスト国立工芸美術館において、「陶芸文化交流に関する覚書」を締結。 <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	現代陶芸美術館が組織目標として標榜する「県民の陶芸美術に関する知識・教養の向上及び県陶磁器産業の発展のため事業を推進し、加えて地域振興・観光誘客を強化する」に合致する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価)	・ 展覧会開催が、陶芸文化に関わる国際的な人的ネットワークを形成につながっている。現代陶芸美術館及び当地域文化の国際的なPRを行うことができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	ハンガリーブダペスト国立工芸美術館との連携を強化することで協力体制を築き効率化を図っていく。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>陶芸文化を海外へ発信してくためには、コレクションの充実が必要である。また県の陶磁器産業や類似の陶芸館と連携することが重要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>ハンガリーでの現代陶芸美術館収蔵作品の展覧会や長期的な陶芸文化交流に向けて、令和6年度以降も継続して文化交流を進める必要がある。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	